

	<p>2011年9月15日 第86号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

バッタ広場のバッタ・カマキリの数を調べた

バッタ類の生息数を調査したらどうだろうという釣巻さんの提案が（注）がありました。みんなで片っ端からバッタやキリギリス、カマキリを捕まえて、最後に種類を同定し、数を数えて放すという方法です。夏の真っ最中で暑そう、だけど、ちょっとおもしろそうじゃない、というわけで、8月20日集合、虫好きの仲間も応援に駆けつけてくれました。

（釣巻注：私はこの提案をしておりません。しかし楽しい調査でしたので来年ももう少し方法を工夫して実施したいと考えております。）

私達が頻繁にバッタ広場の草刈をするようになって、藪というより草丈の伸びた草むらになって、子ども達もよく虫取りに来ます。それはうれしいのですが、何しろ狭い広場なので、乱獲(?)されて、カマキリが少なくなったと話していたところだったので、タイムリーな調査でした。

釣巻さんから調査のやり方の説明を聞いて1時間ほどみんなで昆虫採集に専念。草が茂っているのでなかなかうまく捕まえられません。目立つところに止まっていて動きがにぶいイナゴは簡単に捕まえられ、子供の頃イナゴを捕ったことを思い出しました。草むらをかき分けるとバッタ類以外の虫も見つかります。もう取り尽くしたか、というところで、捕獲した虫を釣巻さんが種名と数を確認し、虫

の特徴などを説明してもらいました。

私は、8月中旬と言えば虫の最盛期だからカマキリやバッタは成虫になっていると思っていたので、幼虫が多かったのは意外でした。

バッタ類ではありませんが、生きているタマムシを2匹捕まえました。バッタ広場では飛んでいるタマムシを見かけたり、死骸や羽根が落ちていたりすることは多いのですが、生きている虫をつかまえたことはありませんでした。美しい虫をじっくり観賞してから放しました。タマムシは羽根をキラキラさせて飛んでいきました。

カマキリでは、バッタ広場でよく見かけるのはオオカマキリとハラビロカマキリです。どちらも

樹林地や林縁にいるカマキリだそうです。確かにバッタ広場は斜面林のマント群落になります。



カラーで見せたい！玉虫色のタマムシ

ショウリョウバッタモドキは、バッタ広場にしかない貴重な種だということでしたが、塚本さんが城址そばの空き地にいるというので行ってみました。が、イネ科植物が刈り取られた後で、見つかりませんでした。

バッタ広場のバッタ類とカマキリ類

バッタ類	数量	カマキリ類	数量
イナゴ	36	オオカマキリ	2
オンブバッタ	27	オオカマキリ幼虫	5
ショウリョウバッタ	4	ハラビロカマキリ幼虫	2
ショウリョウバッタモドキ	1		
クビキリギリス幼虫	5		
シバスズ	4		
ササキリ	2		
セスジツユムシ	1		
計 8種	79	計 2種	9

その他の虫

タムシ2、アカボシゴマダラ幼虫2、シロテンハナムグリ、サビキコリ、カナブン、アオドウガネ、キマダラセセリ、ダイミョウセセリ、キチョウ、ナガコガネグモ、エビイロカメムシ、エビイロカメムシ幼虫、ウズラカメムシ、オオウンモンクチバ、エダシャク幼虫、ヤガ幼虫、他未確認いろいろ。

8月に入ってほとんど雨も降らず、30度を超す暑い日が続いていたのに、調査の前日にまとまった雨が降り、この日は22度とかいう涼しさで、虫たちも調子が狂ったかもしれません。雨露で靴の中まで濡れてしまいましたが、夏にしては涼しい調査で助かりました。

実感として以前はもっとカマキリがいたと思うけど、釣巻さんに1回の調査で多いとか少ないとか言っではいけないと釘を刺されました。冬にはカマキリの卵の調査をしたいと思います。



イナゴ(左)とササキリ幼虫(右)

「ビオトープと管理について」

むずかしいテーマで勉強会をしました

7月16日(土) エコポリとの共催により、水研クリエイト(株)尾坂尚之さんを講師に「ビオトープと管理」をテーマに現場で勉強会を開きました。参加者は会員が6名、区の広報を見て参加した人が6名でした。赤塚城址・ため池公園内に3箇所あるビオトープは、すべて会が整備に関わり、維持管理してきたところです。それぞれ10年以上が経過し、意図しないアクシデントが続いて様変わりし、あらためて人間の思い通りにならない自然の強さ、難しさ、都会のなかにあるために人の行動が自然に与える影響の大きさ、それから「人に対する気配り」をどうするか等、どのような考えで維持管理をしていくか、という課題が迫っている中での勉強会でした。



まず、バッタ広場へ

この日は猛暑のかんかん照りで、バッタ広場はその辺では味わえない草いきれ。中に足を踏み入れると・・・いました、いました、まだ大人になっていないバッタやカマキリ、マメコガネ等々。以下に講師の尾坂さんのお話をまとめました。

- 1 ここは本当にすばらしい自然の空間だ、東京近辺でこのような場所は他にない。藪のようなところには生き物が多い。貴重な植物がある必要はない。植物単体よりも、この環境が貴重である。しかし自然が好きな人ばかりではないので、そういう人たちに自然の豊かさをアピールし、都会にも自然が必要だということを認識してもらう必要がある。
- 2 藪のまま放置すると、人はゴミを捨てたくなる。都会の自然だからこそこまめに手入れする必要がある。
- 3 公園の中にある空間なので、人を寄せ付けない空間でなく、人が入りやすい工夫をしたい。景観に配慮した観察路をつくってはどうか。ツククサのような花でも咲いていると人を引きつける。観察路はそういう花のそばを歩けるようにつくる。人為的になるが観察路から見えるように移植する方法もある。

木はあまり大きくしない。2年か3年ごとにローテーションを決めて、根元から切る。ま

た周囲の生け垣も低くして中が見えるように配慮する。小さい子供の目線で見ることが必要。草丈が高くなるオギも、最も成長する6月中旬頃に、生き物がいないか確認してから根元から切ると、草丈の低い状態で維持できる。

外来種の駆除、クズやササの刈り取りも必要。都会の自然は手入れをしないと維持できない。

枯れ草は火付けなどのいたずらが心配されるので、刈った草を野積みしないよう管理者から指示されているがどうしたらよいか、という質問に対して、根元から丸ごと切らずに、細切れにナタ等で払い、そのままにしておくといわれ、と言われました。各地でそういう「刈りっぱなし」処理がされているそうです。でも刈る作業量は数倍になります。尾坂さんならバツタ広場の刈り込みは丸3日の作業量だそうです。我々の能力が尾坂さんの3分の1として、1回の刈り込みにつき約10日/人の作業量になります。さらに私達には、1日中働かないので、全域の刈り込み1回につき約30人/2時間位でしょう。年3回刈るならこの3倍、維持管理の応援団が必要です。また、いずれ刈るのなら、早めに刈った方が楽ということになります。

ピオトープ池の惨状 浄蓮寺下の湧水池

浄蓮寺下のピオトープ池は板橋区環境保全課が公園管理所の了解を得て、区の委託を受けた尾坂さんの指導により会も一緒になって掘った池です。ザリガニが入れられてザリガニ池になってしまいました。連日の猛暑で池の水位は下がって池の面積はいつもの半分になり、水温はまるでお湯、なかで半分茹だった瀕死のザリガニがもがいていました。駆除するなら今ですが、この状態では、またザリガニが放され増えることが予想されるだろう、ということでした。

(後日、台風が来たり前線が下がってきたり、雨が降り池水も回復、ザリガニも生き返りました。)

ため池公園内の水辺ピオトープ(赤塚トンボ池)も悲惨

春、オタマジャクシが消え失せた池に多数のザリガニがうごめいていましたが、ミシシッピーアカミミガメ(放されたのか自分で来たのかわかりません)が居着くようになってザリガニは減りました。しかしカメの姿が見えなくなるとまたザリガニが目につくような状況です。安全確保のため、区がこの池を金網で囲いましたが、フェンスがあるうがなかならうが、ザリガニがいれば人は柵を越えてザリガニを捕りに入る、これもザリガニ池です。

環境保全課の呼びかけで、計画から池づくり作業まで住民参加でつくられ、池底はベントナイト(粘土)を挟んだゴムシートを敷いて防水しています。完成当時からゴムシートの接合部分から漏水し、少ない湧水量では水は設計水位まで上がらず、オーバーフローしないたまり水です。水がよどみ、池底にはヘドロが真っ黒にたまっています。池の表面にはプランクトンが油膜のようにおおっていて、人に見せたくない「美しい自然」とは言えない水辺の眺めでした。

尾坂さんによると、池の中に植物が育つような工夫した方がよいということでした。確かに水深があると植物はよく育ちません。尾坂さんの助言により何度か湧水の流入を止めたこともありましたが、湧水だった2005年には湧水を止めた池は干上がる寸前になり、植物はよく繁茂し、ザリガニはすっかり減りました。

荒川から移植したウキヤガラがよく育っており、現状のまま植物の育つ環境はつくれます。湧水を水路で引いて利用しているので、ため池のように水を入れたり止めたりできます。時期

は11月頃がよいそうです。リスアカネも羽化し終わっているので、湧水の流入を止めて、干上がった状態をつくり、また2月ごろに湧水を入れればヒキカエルの産卵に間に合います。そして干上がったら底泥を除去する(底泥は上等の肥料になる)、下流側の池は底泥の除去とゴムシートをとり除くこともやってみたいと言う声も。日本のため池では、毎年冬の間、水を抜いていました。この時期に雨が多い年もありますが、年によっては池が空になるときもあり、干上がった池の環境をつくり出していました。この池でもやってみたらどうかという助言です。

釣巻さんはこの池から毎年オオアオイトトンボが発生するといえます。

講師の結論は「自然の中にないビオトープではこまめな管理が絶対必要だ」でした。私は最初自然だから手を加えない方がよいと思っていましたが、お話を聞いて、「やっぱりそうか」とちょっとガックリ。また「何をすればよいかわかったから、とにかくやろう」と思いました。

参加者には、「日頃、散歩でバッタ広場に来るが、人の手で管理されているとは思わなかった」という発言がありました。だれでも自然は手がかからないと思いますよね。そういうことを参加者に知ってもらえたこともよかったと思えました(坂本 郁子)

バッタ広場管理計画を赤塚公園サービスセンターに提出

ビオトープと管理の勉強会を踏まえて、バッタ広場の管理計画をつくり、8月31日、有志で赤塚公園サービスセンターの近藤所長に提出しました。「立派な計画案だけど、本当にやれるの?」と言われてしまいました。私達はバッタ広場をよい形で維持していくために、作業をしています。城址の木や草原の移り変わりを見たり、土や生き物に触れたりしながらの作業は、楽しいけれど、参加人数も限られ、年齢的な問題もあります。「1年間計画通りにできるか、バッタ広場がどうなるかわかりませんが、とにかくやってみます」と答えました。冬には竹で柵を作らなければなりません。腕に覚えのある方、時間がある人は応援してください。

日暮台公園の自然観察

あなたも一緒にやりませんか

今年の5月から第1土曜日の午前中に日暮台公園の自然観察をしています。昨年の夏、南部公園事務所長の市川さんに、ドングリなど木の子供が芽生え育っていくのを見守りたいので、斜面林内の下草を刈らないでほしいとお願いしました。了承され、昨年夏から林内の下草刈は実施されていませんが、状況は思わしくありません。定点の南端には新たに土止め柵が作られました。私達が中にはいると地盤をいっそう傷めるので、林内は外から観察し、斜面林の下から林縁植物(主に野草)の観察をすることにしました。

次頁の写真のように、西向き斜面の樹林地で住宅が接近しています。それでも樹林地の縁は、林内に比べて明るく、植物が育ちやすい環境です。5月には、ツボスミレ、キランソウの花がきれいでした。楽しみに訪れた6月は草刈された直後でした。ひととおり見て「なにもないね」と

この日の調査は終了。7月に入ったら植物は賑やかになってきました。8月、キツネノカミソリが沢山花をつけていました。9月、キツネノカミソリの花は終わって種ができ、今度はキツネノマゴが小さいながらも可憐な花をつけています。毎月植物は少しずつ移り変わり、クズ、



林縁の様子。左手に住宅が迫っているが、樹林地と住宅の狭い空間でも、日照があるので植物が茂り、生き物も多い。

ドクダミ、ヤブガラシなどに混じてホタルブクロや、ヒメジソ、ヨメナ、ホウチャクソウなども発見、図鑑で調べたりして4ヶ月で42種類を数えました。少しずつ身近な植物が身近に感じられてうれしくなります。また、8月末の台風12号でかなりの雨が降りましたが、日暮台公園では林縁の植物が大雨で土が流れるのを防いでくれました（改修された西台公園ではかなりの土が道路に流れ出ていました）。



左：キツネノカミソリ、右：サトキマダラヒカゲ

林縁は日照があり、植物が生育しているので、虫たちも多いようです。また、土も林内よりふかかしており、木の種（イヌシデ、クワ、エノキなど）が芽を出していて、森の子孫が育つ環境です。が、今は草刈されるので芽生えた木の子ども1年以内の命です。

林縁は出来るだけ草刈を少なくして、土砂の流出を抑制し、野の花が咲き、生き物のためにそ

っとしておくことも、公共の緑の大切な役割と
 思います。

区内の斜面林をもつ公園はみな深刻な状況に
 あり、この日暮台公園も1年間林内の下草刈を
 しなかったにもかかわらず、草はほとんど生え
 て来ず、新たに土止め柵が作られました(写真
 右)



私達は、成増4丁目緑地の調査をし(別の機
 会に報告します)今度は、実践編として自宅に
 近い樹林地として日暮台公園を選び、まず日常
 的にモニターしていくことにしました。

樹林地の自然を観察しつつ、保全方法を模索して行きたいと思います。まず観察会からあなた
 も一緒にやりませんか(観察日を変更する場合がありますので事務局にご連絡を)(瀬田 政江・坂本
 郁子)

活動・観察記録(5月～8月)

5月7日(土) 日暮台公園樹林地の植生調査と林縁の植物観察

キランソウ、エビヅル、スイカズラ、ホウチャクソウ、スイカズラ、ツボスミレ

5月21日(土) バッタ広場ササ刈等と生き物観察

5月28日(土) バッタ広場観察会(釣巻岳人)「どんな草原ビオトープを目指すか」

ヒバカリ(ヘビ)

6月4日(土) 日暮台公園樹林地植生調査と林縁の植物観察

6月18日(土) 観察会「和光市白子の湧き水の自然を守るために」

6月24日(土) バッタ広場ササ刈と現状観察

7月2日(土) 日暮台公園樹林地観察

イヌシデ・コナラ実生、サンショウ、サトキマダラヒカゲ

7月9日(土) バッタ広場植生調査 クルマバッタモドキ、トンボ池にシオカラトンボ多数飛来

7月16日(土) 観察会「ビオトープと管理(バッタ広場を中心に)(講師:水研クリエイト(株)
 尾坂尚之)

猛暑で浄蓮寺下ミニトンボ池の水位低下、ザリガニが赤くなってアップアップ状態。バッタ広
 場でヤハズカミキリ、

7月23日(土) バッタ広場草刈り等と現状観察

ササ、クズ、セイタカアワダチソウ、ブタクサ、オオマツヨイグサ、コセンダングサ刈り取り、
 ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン花、タマムシが飛ぶ、ヒメクサキリ幼、イナゴ幼、カラスア
 ゲハ、フタトガリコヤガ、カブトムシ・オオシオカラトンボ・カブトムシ等の残骸、

8月6日(土) 日暮台公園樹林地観察

8月20日(土) バッタ広場のバッタ類調査

活動のお知らせ

9月の運営委員会：9月24日(土) 12:30～13:30

10月の運営委員会：10月22日(土) 12:30～13:30

作業・観察会の後に赤塚ため池公園そばのラーメン「しらかば」で行い、報告や活動内容などを相談します。午前中の作業の状況で時間が多少ずれることがあります。

雨天で作業が中止の場合も運営委員会は開きます。

連絡先；坂本(090-4618-1295)

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：11月19日(土) 12:30～

問い合わせは事務局 瀬田(3969-7124)まで

赤塚ビオトープの観察と環境整備(雨天の場合は観察とゴミ拾い)

飲み物、軍手、タオルなど、汚れてもよい服装。あればカメラ、ルーペ、双眼鏡、図鑑等

9月24日(土) 10:00～12:00 バッタ広場の草刈等と現状観察

10月15日(土) 10:00～12:00 バッタ広場の草刈等と現状観察

10月22日(土) 10:00～12:00 バッタ広場の草刈等と現状観察

11月19日(土) 10:00～12:00 バッタ広場の草刈等と現状観察

トンボ池の湧水流入を止めます。

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

日暮台公園樹林地観察会(原則として第1土曜日)(樹林地内の植生と推移を観察します)

10月1日(土) 10:00～12:00 日暮台公園前集合

11月5日(土) 10:00～12:00 日暮台公園前集合

明治神宮の森観察会の予告

日時：12月17日(土) 10:00～12:00

参拝して、森の成り立ちや管理についてお話を聞きます。

集合場所等は次号でお知らせします。参加される方は坂本まで

FAX：5920-5581 メール：mizumidori@nifty.com

ビオトープ管理のボランティア大歓迎

生き物のすめる草地(バッタ広場)などの管理作業を応援していただませんか。

大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったり、割った竹で周囲の柵をつくったりしています。

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)